

和光市デジタルミュージアム紀要

第5号



目次

<講演録>

武蔵国新羅郡誕生の歴史的背景について

- 特別展「新羅郡の時代を探る」シンポジウム - 宮瀧 交二 p 1

<研究ノート>

長照寺の「大いちょう」と和光市の木「イチヨウ」について 小田部 玲子 p 13

<報告>

特別展「新羅郡の時代を探る」の記録 安井 翠 p 29

<実績報告>

平成30年度 和光市埋蔵文化財調査年報 江口やよい p 41



2019.3

和光市教育委員会

序文

和光市では郷土のゆかりの貴重な文化財などを、後世に伝え活用するために、多くの方々から資料の委託や寄附をいただき、これまで文化財保存庫に収蔵してまいりました。これらの収蔵物等を広く市民の皆様をはじめ多くの方々にご紹介し、本市の歴史や文化をご理解いただくため、平成24年4月1日からWeb上で「和光市デジタルミュージアム『れきたま』」の配信を開始しました。配信開始以来、年間約20,000件閲覧していただいております。そして、『れきたま』の充実を図るべく、和光市文化財保護行政の1年間の成果を取りまとめた「和光市デジタルミュージアム紀要」を創刊し、併せてWeb上において公開をしてから今年度で第5号となりました。

平成30年度の主な成果として、朝霞市教育委員会・志木市教育委員会・新座市教育委員会・（公財）和光市文化振興公社よりご協力いただき、平成30年11月15日から12月2日まで特別展「新羅郡の時代を探る」と題した展示会を開催し、展示品から新羅郡時代の様子を伺うことができました。

さらに、平成30年11月24・25日には、展示会の関連講演会として記念シンポジウムを開催し、大東文化大学教授宮瀧交二先生に「武蔵国新羅郡誕生の歴史的背景について」と題してご講演いただきました。その際の、講演録をデジタルミュージアム紀要第5号へ掲載することについて快くご了承賜り掲載いたしました。また、和光市文化財保護委員の小田部玲子氏から市指定文化財「長照寺の大いちょう」について樹木医としてのこれまでの研究の貴重な成果をお寄せいただきました。さらに、平成30年度の埋蔵文化財調査年報も併せて掲載いたしております。

有形・無形文化財、民俗的文化財など先人の残した文化財は、本市の貴重な財産であり、後世に残していく責任があります。また、このような文化財の蓄積は、当市の歴史や文化財を学び理解していただく上で有効なものであると考えています。

最後になりましたが、本紀要の刊行にあたりまして日ごろからご指導いただいております埼玉県教育局市町村支援部文化資源課、和光市文化財保護委員会委員各位、また、公私ともご多用の中、たくさんのご教示・ご高配を賜りました関係者の皆様に心より厚く御礼申し上げます、あいさついたします。

平成31年3月
和光市教育委員会
教育長 戸部 恵一

